

(■トライックー 肩のマッサージ)

(ss)

(【主人公】立っている)

(梨花)

(マイクとの位置関係：⑨よりも少し遠めで)

(体勢：座っている)

(△鍵を開ける音)

(△玄関扉の開閉音)

001 「あ、お帰り。ちょっと遅かったね」

(少し間)

002 「えー、別に良いじゃん、うわらの仲でしょ」

003 「…せ、一人暮らしつて、のんびりできる分、
たまーに寂しくなっちゃう時、ない?」

(少し間)

004 「や、だから、類のことを思つて、部屋にお邪魔してゐてわけ」

005 「え、元気出たい」

(少し間)

006 「もう、溜息なんかついてえー」

007 「そんなに一人が良いなら、私の部屋に行つたが?」

008 「今誰もいないから、好きな」とし放題だよ~?」

(少し間)

009 「ふふ、じゃあ早く」いつか来なよ。

鞄なんか置いちゃう!」

(◇鞄を床に置く音)

(◇近づく足音)

(位置：⑨よりも少し遠めの位置→⑧に移動)

010 「…あ、隣、空いてるよ。」

011 「まあ、私のソファーじゃないけど」

(◇ソファーに座る音)

(位置：⑧→⑦に移動)

012 「お、素直だねー。…もしかして、けつ」つ疲れてる?」

013 「…んー。だったら、帰った方が良いかな…」

(少し間)

014 「いや、遠慮つていとか…親しき仲にもいひや」

015 「一人になりたい時もあるだろ?」。

「私ってそこまで無神経でもないでしょ?」

(少し間)

016 「そ、空氣の読める女ってわけ」

017 「ど…ど…なの? 帰った方が良い?」

(少し間)

(次の台詞、にやける感じ)

O-18 「へへ、ふーふ、へへ、そつかあ」「

(「」か・か・か・か・マイク、小声で)

O-19 「……ふふ、良じよ。側にいるね」

O-20 「君、けいじゅ弱うてゐるみたいだから」「

O-21 「……ふー。何か、してあるの?」

O-22 「例えは……肩揉んであるとか。

どうかな。凝つてゐる感じがない。」

(少し聞)

O-23 「ふふ、決まりだね」

(オ・ン・マイ・ク、小声はいりません)

(◇ン・フ・ア・ーから立ち上がる音 右)

O-24 「ふいしょ」

(位置：次の台詞を言いながら、⑦→⑤に移動)

O-25 「えいや、早速、肩のマッサージあるね~」「

O-26 「……ふ」

(◇肩を揉む音 ループ)

O-27 「……ふ、ふう……ふ、ふう……」「

O-28 「力加減、じゆくがこや良じや、……ふ……ふ……」「

029 「……ふ、あ…やつちよこ強めね」

030 「……ふうふう……ふ、しょ…」

031 「……ふ。土い」、「強く揉んでるつもりだったんだけど……ふ」

032 「……ふ、ふ……え、…む」

033 「私だつて、あやふと女の方なんだよー。ふ…」

034 「昔は、私の方が力…強かつたけど、今はさすがにね…」

035 「ふ…しょ、ふう…」

036 「あ、笑つた。…何さ、別に変な」と言つてないよね?」

037 「…私が女の子だつて、そんなの当たり前じやん」

(少し間)

038 「ふーん。やつやつて余裕ふうてゆさん、
実は意識してるんじゃない」

(位置：次の台詞を言いながら、⑤→④に移動)

039 「距離だつて近めだ…」

揉んでる手も、細くてふわふわしちゃ」

(「」からオノマイク、小声で)

040 「ふーん…」、「ふう」としたり、しない?」

041 「……ほんと?」

042 「……ふー、そつかあ。ほー、そつだよねえ」

043 「仕事で長じし……ん、ふう……ん……」

044 「やうこえは、子供の頃も、『やうて肩揉んだりしたよね』

045 「…憶えてる。」

大人の真似っこして、全然疲れてないのに、あー肩凝ったあつて

046 「…あの時は、肩揉まれても、

かよつとくすぐったいだけだったの」「…」

047 「今は、ちゃんと気持ち良いく感じ、あるよね…」

048 「…ん、ふう…

いや…なんか、お互い大きくなつたなあつて…」「…」

049 「一緒にいると、あんまり気づけないけど……。」

肩…がつぶつとしてる」

(位置：次の台詞を言いながら、④→⑥に移動)

050 「…小さかった背中も、広くなつて……ふふ」

051 「やうこえ、照れてるんじゃない？ 艶…赤くなつてるよ」

052 「……なんぞ、うーん。ふふふ」

053 「赤くなつてるのは、嘘だけ…」

顔、かよつと緩んでるのは、ほんとだよ」

054 「…帰ってきた時より、リラックス…してる」

055 「…ん、はあ……ん、ふう……」

056 「肩も、だいぶほぐれてきたねえ…」

057 「…ん、ふう…。マッサージ始めた時は、もつガチガチで…」

058 「せんと」、凝つてゐる感じだったか?」…」

059 「…ん、はあ…。今日も、大変だったんだね」

060 「…大学生は、時間有り余つてゐるのに。すいに…社会人つて」

061 「…せんと、お疲れ様」

062 「…ん、何ぞ…。

私が「んな」といつて、變だつて思つた。」

(少し間)

063 「んー。私も、ちょっと照れくさいかも…」

064 「でも、聞いたかったから」

065 「…たまには、」いつのもの良い感じやない?」

066 「…ん、しょ」

067 「…ん、ふう……むみ、むみ」

068 「…硬くなつた筋肉も、んう……
しつかり、労わつてあげないとねえ…」

069 「…ん、んう…ふう、もみ、もみ……
もみもみじ…ひと」

070 「…ん、はあ…。ほひ、お肉は叩いたり揉んだりすると、
柔らかくなつて…美味しくなるから」

(位置：次の台詞を言いながら、⑥→⑤に移動)

071 「…うい、君が美味しくなつても、しょーがないか」

〇七八 「ん……ふう。ああ……なんだか、お腹[おなか]もやつた」

〇七八 「もう夜だし……お肉の話[はなし]だら、わざわざね……」

〇七八 「…………う、うそ、知[し]いれるよ。

帰[か]って来る前に冷蔵庫[れいぞうく]見たから」

〇七八 「へえ。見事[みじ]にすいかんだったねえ」

〇七八 「…………あ、外食[ほかし]なくて。

実は、買[め]い出しして来たんだ」

〇七八 「ううう、なんかものないだらうなーって思[おも]ひて」

〇七八 「……実際[じつじ]、その通りだったでしょ。

……ふう。もう何年[なんねん]のせいでだと思[おも]ひてねー。」

〇七八 「そのへりに分かるいじ。

……ふう……ふう……はあ…」

〇七八 「……だ、肩[かた]の具合[きゆう]……うう。少しは楽[うれ]になれた。」

(少し間)

〇七八 「そか、良かった」

(数秒ほど間)

(位置 : 次の台詞を言いながら、⑤→④に移動)

〇七八 「……じゃあ、それそれで」飯[ごはん]にする。

(数秒ほど間)

〇七八 「うふ、うよーかい」

(◇肩を揉む音、「じー」音)

(オンラインマイク、小声は「いー」音)

○ 84 「まー、2、30分もあればできると思つかー、アーダ待ってー」

(少し間)

○ 85 「ふー、献立…何か気になる。」

(位置：次の台詞を言いながら、④→③に移動)

○ 86 「それはあ……」

(「いー」が、「オンラインマイク、囁くべよう」)

○ 87 「出来てから、お楽しみ。ふー」

(オンラインマイク、囁く音)

(■トライック2 手料理と初めてのエッチ)

(セ)

(【主人公】立っている)

(梨花)

(マイクとの位置関係：⑦)

(体勢：立っている)

(◇野菜を切る音 フュードライシンコレーブ)

(数秒ほど間)

001 「えー、なー」。ソファーで待つれば良いのに

002 「何作っているか、知りたいの。」

(少し間)

003 「ん……簡単に教えてやうのも面白くないなあ」

004 「聞いてみたよ。」れ、何作っていると思つ?」

(数秒ほど間)

005 「あー、惜しいかも。

近いんだけど、カレーじゃないんだよねー」

006 「使う具材は一緒でも、味や色は全然違うから。
…」れ、大ヒントだよ」

(少し間)

007 「そ、せーかい。

カレーとシチューの違いって、ルーの色とスペイスくらいだよねー」

〇〇8 「……ちも手軽に作れるし、
レシピ通りに作れば失敗する」とないから、
安定している感じが…」

〇〇9 「…あ、聞いておくけど、
私はアレンジとか加えても、失敗しかやつたりしないよ。」

〇一〇 「料理の腕、知ってるやしょ。」

せむ、「んなに手際良いんだから」

〇一一 「……ね、それは昔の話だつて。今は大丈夫」

(少し間)

〇一二 「ん……そりや、練習したから、かな」

〇一三 「何もしないで、急に上手くなるわけないじゃん」

〇一四 「お母さんに教わりながら、いっぱい努力して、頑張んないと……」

〇一五 「……ん。それは…なんていうか。
料理できる方が、女の子っぽくない。」

〇一六 「…もう、恥ずかしい」と言わせないでよ。
…せんと、それだけだから」

〇一七 「んう……」

(少し間)

(△野菜を切る音 1J1モド)

〇一八 「何…。そんな、じーっと見て」

(少し間)

O-19 「ああ、」
やいぱり、料理する時は、Hプロン付けた方が女子力高いかな——」

ONO 「えいへ、 俊介ひしゅう。」
やいぱり、料理する時は、Hプロン付けた方が女子力高いかな——」

(少し間)

ONO 「何ぞ、 もうと褒めでよー。
やしかして、 黒れいへ、 ふふ」

ONO 「ま一期待してないけど、 ちょっとへりこま……え？ あ……」

ONO 「……こや、 可愛いとか。

「いやれぐみるど、恥ずいね」

ONO 「あ……ひへ、 やいぱりなしや。
なんか言わせたみたいだ」

ONO 「……ちよ、 ほんとそういうの、 良いか。」

「せひ、 真まん中なかで」

(位置：次の台詞を言いながら、⑦→⑤→③に移動)

ONO 「えいへ、お鍋の様子は……うそ、 良い感じ」

(△炒める音 ループ)

(数秒ほど間)

ONO 「……もお、 やの可愛い可愛いいいいの止めでよー。
わいせ替へおひるやしよ」

ONO 「そんな心の」やいへない可愛いなんか、 ひとつも効かないから」

ONO 「……まあ、 裏めでくれるのは、 悪い気しないだ」

(少し間)

O30 「……か……つまでも見てるの。」

(少し間)

O31 「や……私の『』、見てるよな。お鍋の中じゃなくて」

(少し間)

O32 「……、せとて、」

料理してた私に、見惚れちゃったとか。」

O33 「……ふふ、『冗談だつて』」

O34 「……、でも、お鍋見て、面白い。」

O35 「まだ時間掛かるし、お腹空こむやつだけだと思つたなあ……」

(少し間)

O36 「ん~、なり、良いんだだけ」

(△炒める音 フュードトウト)

(時間経過のため、数秒ほど間を置く)

(△煮込む音 振え目な感じ フュードキンシドルーフ)

O37 「えう~、良い匂い」

O38 「……はあ。」の音聽いてるだけでも、お腹空くよねえ」

O39 「……ん~、かつかつかかなあ」

O40 「私だって早く食べたいけど、

せひ……まだどろみがつこてないでしょ。」

041 「もひと」「う…混せた時、六」
とかへつてなるまで待たないと「

少し間

042 あ、今……お腹鳴らなかつた？」

(位置…次の台詞を言いながら、③→⑥に移動)

043 「いや、絶対鳴つたって。

少
間

044 「え？ 聞き間違いのわけないって。

045 「へ元」

(位置：次の台詞を言いながら、⑥→⑦に移動)

046 「じゃあ、次は聞き逃さないようにななくちゃ」「

(「」からオンラインマイク、囁くように)

047 「……ふふ。」の距離だったら、もう誤魔化せないよね

048 「……まあ、シチュニが一ひとと煮込まれたのね……」

それは傷しに名いや……意識などお腹空いてくるでじ

848 —お肉と野菜の味が溶け合って

050 [.....あ。
ふふ]

〇五二 「今度「」や、お腹鳴ったよね」

〇五三 「君の恥ずかしい音、聴いたやつだ。ふふ」

(次、自分もお腹が鳴ってしまう)

〇五三 「……あ。うう…」

(オノマトイク、囁き^{ささやき}しまで)

〇五四 「う、今のは……やのう……はい、私も鳴っちゃました…」

〇五五 「はあ…ふふ。元分けだね」

〇五六 「別に勝負してたわけじゃないけど。
あ一面丸かつたーっと」

(位置：次の台詞を言いながら、⑦→⑤→③)

〇五七 「モード、シチューの方は……うふ、とんとんになってきたねえ」

(△煮込む音 フュードアウト)

〇五八 「あ、お皿ありがと」

(△お皿に盛り付ける音)

〇五九 「」れで完成へ」

〇六〇 「ほほ、これ君の分ね」

〇六一 「……あ、全部持つて貰われるの？」

〇六二 「……じゃあ、よろしく。
私はスーパーとか持つてくから」

(◇二人がリビングに移動する音)

(◇食器をテーブルに置いていく音)

(◇二人がカーペットに座る音)

(位置：③→①→⑨の中間に移動)

○○○「……ん♪。じゃあ、食べよいか」

○○○「……せふ、いただかねー」

(◇食器がスプーンと擦れる音)

○○○「ふ…せふ、ヤベヤベ……うん、美味ー」

○○○「……ど、やいわせまへー。」

(少し間)

○○○「やいた。まあ、血糖あつたけどねー。

子供の頃から作ってたし…」

(◇食器がスプーンと擦れる音)

○○○「ふ…せふ、ヤベヤベ……あ、氣づいた?」

○○○「……やーだよ。

○○○「……ふやふや、ルーが同じとかじやなくて。
やややや、ホワイトソースは自作だし」

○○○「それに、隣で見てたやしょ?
♪うひふ。ふふ」

(◇食器がスプーンと擦れる音)

「...おーおー。わざわざ...んな」

〇六三「みいへたー?

シチュー以外も、色々作れちゃうよ。ぜんぶ、君の家庭

「……………」だか、おまかせいたじやん

075 「森野はお母さんに教わったって。

「誰も、私のお母さんとは、話ひたくないでしょ？」

၁၇၆ မြန်မာ—အူရှေ့

(◇食器がスプーンと擦れる音)

「ん、あむもぐもぐうん、美味い

卷之三

シチューはあつつい食べないと」

(◇食器がスプーンと擦れる音)

「…………あむ、わぐわぐ…………んぐ！」

(△食器△ ベルノン) 漢文書 改少ほじ疏 ハフヨージャウハ

081 「…ねえ。」の後、どうつくる？――

(少し間)

(位置：次の台詞を言いながら、①②③の中間→③に移動)

○○○「いや、せっかく来たんだし、
「飯食べてすぐ帰るつづりのめ、勿体ないといつづりか…。ふ、しょ」

(△座る音 左)

○○○「なんか、映画とか見る?」

確かに、借りてたやつ、あったよね

○○○「……あ、もつ返しちゃったの?
……んー、そつかあ」

○○○「じゃあ…お酒でも飲まない?」

(少し間)

○○○「えー、良いじゃん、宅飲み」

(少し間)

○○○「へー、何がまずいの? 別に普通だつて」

○○○「……それとも、お酒飲んだら、何かまずくなっちゃう?..」

○○○「…例えば、我慢できなくなったり。ふふ」

(少し間)

○○○「えー、そつかなあ..」

○○○「バレでないって思ってやうだけど、
私の「んー、意識してんな

(「」からオンマイク、小声で)

「……それっきりだけじゃなくて、今も。ふふ」

〇〇三 「體魔化せなくても良いわ。

料理しててる時、私のことチラチラ見てたし」

094 「」「ううの、何か期待しちゃうシチュエーションだもんねえ」

095 「一人暮らしの部屋に、女の子と一人つきりとか…」

096 「…そこ」にお酒も入つたりしたら…

卷之三

大正ノ文庫

「えー、なにそれ、ひどい」

098 「幼馴染の前に、私は女なんだけど」

○○○ 「……セ」ほど聞こなひたれ、試してみて……良い? —

河端の御子は誰か?

私のこと、意識していないんでしょ?」

101 「だつたる…ちよとへらひ悪戯しても、良いんじやない?」

102 「君の、」――

103 「あれ、少し大きくなつてる……。」

まだなんもしないのに…

「……………ん」「……………ん」いや、皺じなじでしょ。

(◇ズボン越しに触る音)

(111) 「か、ガオノマイク、小声で)

105 「ほー、やいませ、硬いじやん」

106 「…うさ、うさ。すり、すり…うう」

107 「えいわー！」、大きくなつてゐるの…
距離…近すぎた？」

(少し間)

108 「くそ…違つてだ」

109 「…じやあ、たまたま！」のタイミングで、勝手にやつなつたひー」と…
…生理現象的な

110 「……ふーへ。そつか」

111 「……ね。」「、見せてよ」

112 「……や、なんか…ノリつていうか…そんな空氣じやない？」

113 「…何、照れてる。

子供の頃、一緒にお風呂入つたりしたじやん」

(位置：次の台詞を言いながら、③→⑤→⑦に移動)

114 「あの頃とは、やつぱり…違つのかな。
…ひょ、手…むけでよ」

115 「離されたら、余計…氣になる」

116 「いーじやん。幼馴染なんだから、見せてよ。
感るもんじやないぢしょ。…ね？」

117 「……えー。やいせり…意識してる？」

(少し間)

1-18 「な、良、よ、ね。チャック開けるよ」

(△チャックを開ける音)

1-19 「あ。へ。」

(△下着が擦れる音)

(オンマイク、小声は「」まで)

1-20 「は、あ……お、おつきい……ね。
子供の頃と全然、違う……」

(位置：次の台詞を言いながら、⑦→⑧に移動)

1-21 「もつと……ひ、可愛い形……してたのに。
大人な感じだ」

1-22 「ふふ。」、「わじやもじやしへる……はあ。
変わっちゃったね」

1-23 「う、私もだよ。ちゃんと、大人になってる。
だから」

(△手「」キの音 ループ)

1-24 「……え。」「ううう」と、しても良いよね」

1-25 「嫌なら、手、振り解いて良いよ」

1-26 「……や、何でつて握つて、ほしそうだったから」

1-27 「……「」ないと、大きいまなんじょ」

1-28 「いやあ…擦りついでかへしてあげなこと」

1-29 「……ん、まあ……んう……ん、ふう…」
「

1-30 「あ…びくびく…してきた」

1-31 「……ん、まあ…あひひこ…」

1-32 「……ん…まあ…」

1-33 「……ん」たの。手や脚の、止めつけられ…ん、まあ…」

1-34 「…嘘だよね。声に、力入ってないよ」

1-35 「握りしめるよ」ほ、「ぐな…硬いのに」

1-36 「ふい…ふう…や、だから…」

(位置：次の台詞を言いながら、⑧→⑦に移動)

1-37 「理由とか…そんな、大した」しゃなくて…」

1-38 「実際も…興奮、してたんだしょ。

で…私もそれ見て…そういう気分になつたから…」

1-39 「…ん、まあ…。仕方ないよね…
身近にいる異性って…頗くいいだし」

1-40 「嫌じやなこな、しても…良じじやん」

1-41 「…ん、まあ…ん、んう…まあ…」

1-42 「あれ、先っぽ…ヌルリとしたの、出でるたぶん…
感じてくれるんだ」

1-43 「んう…んう…何や…」

144 「……だ、もひ、田代つなの。」

145 「ああ、いや、君が……此こそだらう。
こんなふうか?」

146 「このまま……手で押して、此こその。」

147 「……ん?」

148 「ほ、わいと氣持が良この……あるね」

149 「此のふたりあるより、Hシチな」と……

150 「ほ、Hシチじやない」。

「つ見(ハシメ)て、いや、普通に…したる、など……」

151 「……だから、处女だつて、眞(マサニ)いれる……」

152 「え…眞(マサニ)わせ、ないだよ」

153 「やつあだつて、童貞(マダム)」

154 「……眞(マサニ)よ、見栄張(ハラフ)なへい」

155 「……だつて、君の近くにいる女の子つて…私へいこなへい」

156 「誰かと付(ハタ)いてたら、すべ分かるよ、私物(マダム)。
そもそも、家(マダム)行かないし」

157 「……ん、はあ…

……で、どうなの?..興味…ある?」

(「」か、「」)マイク、囁くようだ)

158 「……セラクス、してみたい。」

159 「……ん。私は…しても、良いよ」

160 「……恋人なんて、いつやめるか…分からな…」。
それまで、ずっと処女っていうのも…アレだから」

161 「一緒に…捨てちゃねつよ。
…昔みたいに、わ」

162 「初めの」とは、絶対…一人でしたよね」

163 「……大丈夫。そんな、重く考えなくて良いから…
ニッチ、しょい」

164 「……君だけじゃなくて、ん…はあ。私も…気持ち良くなりたいで…
言わなきや、分かんないの?」

165 「……ん、はあ…。君だけ、イッて…。
私だけ、家に帰って、一人で…とか。そんなの、やだ…」

166 「……ん。それか、気持ち良くあるの、止めちゃう?」

(少し間)

167 「ん、はあ…だよね」

168 「……ん、大きくさせて…。

握りしめる手、ベトベトにしてるのに…」

169 「……」やお預けとか、切ないよね…
頼も…私も」

(少し間)

(オノマイク、囁き声)「まや」

170 「……ん、ああ。ずっと擦り合ったら、出ちやうか…」

(◇手 ハキの音　「」)もど)

171 「わ…手を放しても、震える…
もつ待たされないって感じだね」

172 「……全部入れた瞬間、すぐイッちゃつたりして。…ふふ」

(少し間)

(位置：次の台詞を言いながら、⑦→②に移動)

173 「やつは…れても、信じられないなー。」

実際に、してみないと

174 「……あ。ハーツか…あつたっけ」

175 「…ん――…ハーツに近づく。」

なんか…あるが…て時に、少し時間空こむやうのも…」

176 「…いや、選ば…の方がハロかうたりあるのかな?」

177 「…ハーツで歩くのは…いつも通りだけ…
帰ったら…やつんだって考へると…ドキドキしたつ…
え、持つてるの…」

178 「……あー、ほんとだ。

…それ、相手もいないのに、買ったの?」

(少し間)

179 「くそ。…まあ、良いけど」

180 「場所は…ソファードいいか……ん」

(◇衣擦れの音)

1-81 「服…脱いじゃつかへり。
やの間ヒ、ハツの準備…シヒトヒ」

1-82 「…あ、使い方分からん。」

(少し間)

1-83 「セリヤセリヤだよね。てか、箱…空いてる」

1-84 「練習してたんだ。…ふふ、やる気充分だね…………ん」

(◇衣擦れの音)

1-85 「…ふわ。脱いだ…よ」

1-86 「……ンヤ、ンヨウカ。ンフター…行け。」

(◇ンフターに寝る音)

(位置：②→①③の中間に移動)

1-87 「…せあ。良じよ…」

(少し間)

1-88 「…え。！」まどっこいで、今更止めるとか…言わないよね？」

1-89 「おはなこかん、したこうヒトヒトヒルヌ」

1-90 「…………ふふ、相ひしきないなあ」

1-91 「遠慮なんじ、珍しいね？

……今せざ、そういうの良いくから」

1-92 「初めヒの「ふ」一緒に…」よ。

「おおだと、冷えかやハ…」

(◇愛液の音)

1-63 「ん…あ…。ん…そのまま、入れて…」

(◇愛液の音)

1-64 「ん…まあ…ん、く…」

1-65 「大丈夫…。ん、わやくと…来てよ。
奥まで…んう…」

(◇愛液の音)

1-66 「あ…ああ、はあ…。その、まも…ねちんちん、全部…」

1-67 「んう…はあ…」

(◇挿入音)

1-68 「んんんう…、あ…はあ…はあ…ああ…」

1-69 「あんな…大きいのに。入ったんだ…ん、はあ…」

200 「…ん、ふ…ん…ん、」の後は…するの?
「れで終わっじや、ないじしょ」

201 「せっかく繋がったんだから…気持ち良くならないと」

202 「…せ、楽しもつよ。

…それとも、動いたら、気持ち良くなれるかも知れないやう…」

(少し間)

203 「な、してみてよ。処女…だったんだから、最後まで…」

(◇ンファーの軋む音 抽送の速度に合わせる感じで ループ)

(◇さういふぬな押送場 ループ)

204 「えい、あい……えいえい……はあ、えい……ああ……」

205 「やい……動かなじと、セシクスにならなじからね……えいはあ…」

206 「えい……えい、はあ……へい、私なん……えい、平氣…」

207 「……やれよ、やれわの方が……めやこにやなじ… んう…はあ…」

208 「なんか…情けない顔、じてゐ……えい、ああ…」

209 「えい、えう……ねえ、私の中…やるな、氣持も良いの… エい…るの…」

210 「…や、強がらないやよ…えい、はあ…せればれだつて」

211 「その余裕ない顔も……えい、中、ねむくちんも…はあ、あ…えい、
はあ…跳ねてゐるじやん」

212 「えいえう…せそと、ホイ」「ふむ…

はあ、興奮…してゐるじやん」

213 「初めひの、セシクス……えい、えい……ああ…」

214 「はあ…えい、えいん…ああ…あああ…」

215 「私も…気持ち良いよ。

えい、ああ…硬いの、かよひじ良じよ」「」、擦れで…えい、はあ…」

216 「あつあ、えう…はあ、

素直つて言われてても…えい、はあ…」

217 「セシクスつて、気持ち良くなるためにはするもんじょ~」

218 「えいはあ……なのに、強がりてかや、盛り上がれないじやん」

N-1 「あ、ん……。」「せやったんだから、
最後まで楽しめなくては……」

NNO 「えいえ、ああ……はあ、えいえ」

N-1 「あ、や！」……んう、はあ……気持ち……えい、はあ……」

NNN 「えい、あい、ああああ……やいがいが、じいなの?
……えい、はあ」

NNN 「おまぐりの、中で……えい、

んあいああ……やるな、良いのかないで…」

NNN 「良くなかったか……氣になつたから……えい、はあ……んああ……くわ」

NNN 「良くなかったか……氣になつたから……えい、はあ……んああ……
えい、はあ……おー、やいか」

NNN 「おちんちん、入れるための……えい、穴だし……
あ、ん……はあ……はあ……」

NNN 「えいえ、えいああ……はあ…
ああ……せよと！」、「しゃいひるんだ」

NNN 「実感、なこな……んい、ああ…
気持ち良ごと！」、擦れいるのに……えい」

NNN 「……はあ、ああ……うそ、入ってる！」、見えてる……感じてるよ」

N30 「皿の前で、おちんちん……出し入れされ……

それでも、不思議な、感じ……」

N31 「ああ、んいえい、はあ……リアルな、夢……見てるみたい……」

N32 「んあいはあ……夢じや、なこよな」

233 「へあひはあ……だひて……へへ」
「氣持かぬ」の「へへじ」、大きくなひて…」

234 「へあひはあ……だひて……へへ」
「氣持かぬ」の「へへじ」、大きくなひて…」

(◇抽送音　だんだん普通へるの速度で　ループ)

(位置：次の台詞を言しながら、①と②の中間→①に移動)

235 「へへへ、あひあひ、あへ……へへ、へへうへ、はあ…」

236 「急」、がひひこひきたね……へへ、はあ…
そんな、覆ふ被さりこひて顔、ぶつかりかやこやか…」

237 「へう…はあ、へへああ……ちやべと氣を付けてね…」

238 「へあひ、あへ、あひああ…あへんひ、あひああ…」

239 「へへ…かよひと、恥ずかしいかも…

んあひ、あひ、ふあひああ…」

240 「私のじゃない声、出わやう…

んうへ、へあひ、へやひ、あへ、あひああ…」

241 「はあ…ああ～…一人であるのへ、「へな…」、
へん…へ、違う…なんて…」

242 「へあひへんひ、あひああ…
はあ、知らなかつた…へんう、ヤックスつて…
す」へ氣持ち良いんだね…」

243 「へひ、あひああ…へんひ、あへ、
へうへ、ふあひああ…」

244 「へへへ、」、「へへへあひ、おちこちこ、
せりかねむりや…ひへひ…へんひああ…」

245 「い、イキセツなの? んいはあ……あつああ……やう、なんだ…」「

246 「……ん、はあ……実は、私も……んいへ、ああ……イキ、そ……ひ、んいそひ、んあつああ…」「

247 「そん……なひ、奥ばっかり……んあひ、何度……もお、それたら……ひ」

248 「んんあつ、あつあつああひ、
イぐ、イぐうじ、「れえ……ひ、あああ……ひ」「

249 「君も、んう、一緒……ひへ、んひ、んあつあつあつあひ、
イぐ、イクイクイクう、あああつへいい、——ひ」

(△ソングターの転む音 (「」) (まめだ))

(△抽送音 (「」) (まめだ))

(射精)

250 「んんんうううへへへへ、

んあッ……あつ……あああへへへ」

251 「んうんうう……ああ……はあ……はあ……はあ……
イつたん……だよね…」「…」

(少し間)

252 「……うそ、中のおかんちそ、

すいへいへ……ひへひへ……してた…」「

253 「はあ……ああ……ほんとに……しちやつたんだ……
はあ……最後、まぢ……ほまあ……あ……汗、やば……」「…」

254 「……ん、はあ……シャワー、入るつか…」「

255 「……こや、「」(まめだ)したんだから……
やが、一緒に良じょんやになら……」

256 「……昔、入ってたみたいにさ…
今更、恥ずかしいとかないし」

257 「……ふふ。てか、重いよ。
顔も、近い」

(位置：①→①と⑨の中間に移動)

258 「……ん。じゃあ、お風呂…行こつか」

(■トライック3 頭をわしゃわしゃ)

(声)

(【主人公】立っている)

(梨花)

(マイクとの位置関係 : ⑤)

(体勢 : 立っている)

(※トライック3、4は編集で浴室にいるよつた声の反響処理をお願いします)

(△浴室の扉の開閉音)

001 「…」入やると、やっぱ狭いね」

002 「……うん、あの頃は、お風呂ひいて広いイメージだったなあ…
…「うへ、れむ」「

(位置 : 次の台詞を言いながら、⑤→⑥に移動)

003 「呼ぶと」「お湯浴びちゃお。

裸のままだと風邪引っちゃう…」

(△シャワーの音 ループ)

004 「……うそ、」のべらいかな。

…掛けるよ~」

(△シャワーの音 身体に当たる感じ 左右に振る ループ)

005 「……じやあ、私も……はあ、あつたかあ…」

006 「……じやあ、私も……はあ、あつたかあ…」

007 「ふふふ、ああ…汗でベトベトだったから、ふう…気持ち良いく。
はあ~」

(十五秒ほど間)

(◇シャワーの音 フローネットウト)

008 「……ふわ。じゃあ、洗っていいか」

009 「……ああ、待って。

自分でするんじゃなくて、私がしても良い?」

(少し間)

010 「えー? 一緒に入ってるんだし、それくらいしても良くない?」

011 「お風呂に入る時は、いつも洗ってあげてたよね?
まあ、子供の頃だけど…」

012 「……せ、そ」座って。頭洗うから」「

013 「…………なんか、勘違いしちやつてた?
身体じゃなくて、洗うのは頭の方なんだけどなー?」

014 「ふー? ふふ。

別に、紛らわしい言い方してないけど」

(位置：次の台詞を言いながら、⑥→⑤に移動)

015 「そつちが意識しすぎなんやしそ?」

016 「大体、そつきはエッチまでしちやつたんだから…
「ねぐらじ回りもないと思つせどなー」

017 「……あ、思い出しかやつた?」

018 「ふふ、何気まづくなつてんの? 深く考えすぎ」

019 「今時エッチなんて、学生でもしてるんじゃない?」

ONO 「それにはべれま…ねえ。」

(少し間)

ONO 「……うー、まあ、誰がいひしてるとかじやなくで…」

(位置：次の台詞を言いながら、⑤→④に移動)

ONO 「やつらの問題でもないってことだのよ、
私も良く分かっているナエ…」

(位置：④→③に移動)

(「」が、「」マイク、小声)

ONO 「……後悔してないかい」

ONO 「……わやんと、気持ち良くなれだし。ふふ」

(オノマイク、小声)

(位置：次の台詞を言いながら、③→⑤に移動)

ONO 「も、頭洗うんやー」

(△シャンプーボトルのプッシュ音 一回)

(△手のひらで擦り合わせる音)

(△頭をわしゃわしゃ洗う音 中央から左右に振つたり、耳の両側で
耳に近づく際は音量
を少し上げるなど ループ)

ONO 「…わしゃわしゃ、わしゃわしゃ…へや！」

ONO 「…頭もおひきへなったね」

ONO 「…じゃ、へ…」の感じ…変わってないなあ…」

ONO 「……実は、頭洗うの、ナニつ好きなんだよねえ」

○30 「癒されるひつつか……。

君も、気持ちが悪くないでね。」

○31 「自分で髪の毛なんだけど、

髪洗うのも、上手い方だと思つよー」

○32 「……まあ、君のしかやつた」となつかか、

君の頭限定だなじねー」

(数秒ほどの間)

○33 「……そ、そいか。

かやべて出来つい、良かった」

○34 「……あれから、けつこう時間経つちやつたけれど。

腕はこぶつてないみたいだねー。ふふう…」

(次、「機嫌な鼻歌」)

○35 「ふふふふ、ふーふへ、ふーふふふへ」

(三十秒ほどの間)

○36 「だいぶ泡立つてきたね。

……あ、そうだ。気持ち良さしい、変わつてないかな」

(位置：以下、頭を洗つたり泡を流すシーンで、⑤を起点に、ときおりアドリブで後ろの方
かの耳の近くへの移動をお願いします)

(△頭を洗う音　両耳のとひらひ　ループ)

○37 「……憶えてる。耳の近く…好きだったよね。

「——」

(数秒ほどの間)

〇三八 「……ふふ、変わらないんだ」

〇三九 「…自分にする時も、

耳の近くはつから洗つてゐるんやない？」

(少し聞)

〇四〇 「…くべ、やいせつ…誰かにされる方が気持ち良いんだ」

〇四一 「…じやあ、美容師さん」注文とかしてゐるの?」

〇四二 「耳の近くが痒いので、お願ひしますい。 …ふふ」

〇四三 「……や!」おやせしないかあ」

〇四四 「…でも、私になら、やれるよな」

〇四五 「…此こそだよー。 お願ひして」

〇四六 「……耳のとい」気持ち良いか?、 もうとしねへ、 うね」

〇四七 「…やハーハーするナニ。 ふふ」

(△頭を洗う音 耳の側を重点的に。しかもおり中央に ループ)

(一分ほど聞)

〇四八 「…やへやへ、 泡…流つかやつ。」

(少し聞)

〇四九 「やつと、 わしゃわしゃしてほしくんやないの?、

…あの頃みたいに」

〇五〇 「……ハー、 絶対憶えてるやつよ」

O51 「洗いつても、さうの気持ち良しから、
もう少しもひとついと、ダダ」ねたじやべ

O52 「……ふふ。『やめへなこいつ』

O53 「……あ、田開けてたら泡入つむやうよ。
わやべと閉じてなごみ」

O54 「……あ、まあ……で、おつかれ。水流しおやう。」

O55 「……ふふ、良じよー。
わしゃわしゃ遊園ねー。ふふ」

(△頭を洗う音 中央から左右に振つたり、耳の両側で 耳に近づく際は音量を少し上げる
など ループ)

(一分ほど間)

O56 「あーあ、わつ泡おみれだね」

(数秒ほど間)

O57 「……ふふ。氣持が良むだだね」

O58 「……や、顔……まつりあつ映つてるよ。」

……せんぐ 前の鏡に「……ふふふ」

O59 「……うひのけつともひ、撫でまへぬひ、
皿継ぬひ……」ぐな顔するんだよねー」

O60 「……うや、やいへ。ふふ」

O62 「……向い ペット扱ふれぬ、やだつた？」

(少しうま)

O63 「ふい、『凡談ついでいつか、そんなんがに思ひしないいつ』」

O64 「……ただ、なんか可愛いなーって」

O65 「……かんなじ。」

まあ、私ひし…なんでも可愛いって叫ぶ」

O66 「…それだけ、世の中この可愛いものが多いんだよねー」

(数秒ほど間)

O67 「よーくよー、よーくよー」

O68 「……うん。こいや、上へやいに撫でてくださいよー」

O69 「……よーくよー…良こト良こトね…」

(数秒ほど間)

O70 「今日わ、こいよー頑張ったねー。

偉い偉い」

O71 「……でも、頑張りすぎりやうのは、ダメだよ。

かやそど、血分の身体にも優しくしてあげなごとね…」

(数秒ほど間)

O72 「……ふー、私だったら、疲れた日は、せいつつお風呂に浸かって…

ほーいとしたつするかな」

O73 「それか…気分転換に、友達に絡みに行つたり。ふふ」

O74 「……やいませ、

一人で抱え込んでたからダメになつちやうよねえ」

O75 「……だからせ、頼むやーる一日は、誰かに頼つて…

せえわやべば良いと思つなあ」

O76 「……いや、迷惑とか、そんなふうに思わないって」

O77 「……私なら、嬉しいけどな」

O78 「自分の」と、頼つてくれてるついで…
必要なんだなーって、思えるから」「

O79 「……だから、わ。

君も、何があつたら…私の「」と、呼んでよ」

O80 「ていうか、君の方から来てよ。
…だ、一緒に話したり、遊んだりしよ」

(少し間)

O81 「……うそ、約束ね」

(一分ほど間)

(△頭を洗う音 フュードアウト)

O82 「あ、わすがに泡流さないと。

…顔に垂れてしまやしない」

(△シャワーの音 ループ)

O83 「……いや、流していくよ。目隠つてねー」

O84 「……ふふ、いやー、子供扱いじゃないけどさ。一緒に入つてた時は、
じつも隠つてたから。なんか、癖になつてるみたい」

(△シャワーのお湯を髪に当てながら、手でわしゃわしゃする音 中央から左右に振ったり、耳の両側で 耳に近づく際は音量を少し上げるなど ループ)

○㉙ 「……ふそふそふ——」

○㉚ 「あつたかくじ、気持ち良い。」

(少し間)

○㉛ 「ふふ、そつか。

流し終わったが、すつきついでる

○㉜ 「……ん、はあ……わしゃわしゃ、わしゃわしゃ……あ

○㉝ 「……ん、ふ……」

○㉞ 「耳の後ろ側も……洗い残しがないよ」

(数秒ほど間)

○㉟ 「え……だいぶ落ちてきたね。

…あと、もう少し……ん、はあ…」

(三十秒ほど間)

(△シャワーのお湯を髪に当てながら、手でわしゃわしゃする音 フュードマウス)

○㉛ 「……ふふ。 いやあ、次は身体だね」

(少し間)

(■トライック4 洗室でヌルヌル洗体手口キ)

(セ)

(【主人公】立っている)

(梨花)

(マイクとの位置関係：⑤)

(体勢：立っている)

001 「頭の次つていいと、身体しかないよね」

002 「……何やダメなの。」

自分で洗うより楽じゃない?」

003 「……あ、私が触つたら反応しちゃうからとか?」

004 「誰も手で洗うなんて書いてないでしょ。」

…「ね、ちゃんとボディタオル使うから」

005 「……ふふ。意識しますわだつて」

(△ボディタオルのパシパ音)

006 「……ん、洗いにくょー」

(△身体をボディタオルで洗う音 ループ)

007 「……ん、肩の方から背中」……」

(数秒ほど間)

008 「うー、うー…。背中広いから、洗い甲斐あるね」

009 「……ふふ。後で私の背中もやいでわかるおつかなー」

010 「……え、なー」。後ろじゃなくて、前の方が良かつた?」

(少し間)

O-1-1 「冗談だつて。

…もしかして、洗いたい？」

(少し間)

O-1-2 「ふーん。せんとせ触りたい癖だ」

O-1-3 「……今や、鏡超しきりやり見てるやしよ」

O-1-4 「……わいき、Hシチしてる時なんか、
触りたやうな皿してたと思つたじなー？」

(少し間)

(△身体をボディタオルで洗う音 1-1-1おで)

(位置：次の台詞を言いながら、⑤→④に移動)

O-1-5 「あ、前の方も洗つてあげようか」

(少し間)

O-1-6 「良この、洗つてせしゃうだけど」

O-1-7 「……いや、隠しても意味ないから」

O-1-8 「…それ、そのままだと…気にならなー？」

O-1-9 「…私は気になるなー。そんな大きくしちゃう」

O-2-0 「…だ、えりあれる。小さくなるまで待つや」

(少し間)

O21 「やうやく、 小さくなったりやうな氣しないけど」

(少し間)

(位置：次の台詞を言いながら、④→③に移動)

O22 「……ね。 してほしくないが、 良いよ」

O23 「……だから、 それ…おかえりさん、 抜いてあげようか」

(少し間)

O24 「や、 かわかってないし。」

…れいかが、 ハシチまでしたの！」

O25 「今まどのが、 全部冗談だつて思つた。」

O26 「一緒にお風呂入つたも、 初めのことに…
全部、 君だからしたんだよ」

O27 「……こへり興味があるからつい、
そんなの…誰にでもするわけないじゃん」

(「」)かふオノマイク、 小声で)

O28 「……ほんとは氣ひいてる癖」。 …意地悪

O29 「……こまでもやんな態度なら、 私もしかやつよ。
君が…困つかるやつにな」「」

O30 「……べ、 ちゅい。 ふふ」

O31 「耳…弱いもんね」

O32 「「」…やつと呼つたが、 じつなるかな…」

○ 33 「ん…ひゅ、ひゅう…はあ。
おかえりませ…」

「…おかえりませ…」

(◇ヌルヌルの手口キの音 ループ)

○ 34 「…ん、はあ…ハハハ、ハハハ…はる」

○ 35 「…シチした後のおちんちんだから、
よく洗つておかないとねえ…」

○ 36 「…ん、はあ…これりお、れるれりお、れりり…あ…」

○ 37 「身体…びくびく」

○ 38 「耳…じ…そんに良いんだ…」

○ 39 「れりお、れりお、れりお…

ねかんかん、小さくなれば」「わが、じきじきと感じらるよ…」

○ 40 「れりお、ぴかや、れりお…

お腹…びただく…れりお…」

○ 41 「おへや…も腫…かや…かだね…

れりお、れりお、れりお…はあ」

○ 42 「おちんちん…あひとい…れりお、れるれりお、れりお…

あ…んれりお、ぴかや…はあ、そうだ…」

○ 43 「おちんちんだけじゃなくて、身体も洗つてあげないと…」

(◇ヌルヌルの身体を擦りつける洗体の音 ループ)

○ 44 「…ん、ん…あ…」

○ 45 「ねいぱいお、ねいぱい…はあ…」

れりお、れりれりお、れりお…はあ…」

〇46 「私の胸、気にしてたよね?」

んれりお、れらり、れられり……ああ……

〇47 「視線…感じたし。

エッチの時も、ずっと見てたから…れりお、れるり……」

〇48 「触りたいんじやないかなって…

れりお、れるれるう、んれりお…れらりお…」

〇49 「男の子は、皆おっぱい、大好きだもんね」

〇50 「れりお、これるり、れられり…はあ…」

〇51 「私だけ…おひょい、成長したんだよ…はい、はあ…」

〇52 「裸見るよ、」」「へりつけた方が、良く分かるでしょ。」

〇53 「ん…は、あ…んれりお、れるれりお、れらりお、はあ…」

〇54 「ん…は、あ…んれりお、」」「」

〇55 「んあ、ああ…感じ易いと」、「擦れるか、」

〇56 「声…漏れちゃう…んい、はあ…ああ…恥ずかし…」

〇57 「ん…は、あ、聞こえないよ、耳の穴…舌で塞いじやわない…んれりお、れるれるう…んれりお…れるりるう…」

〇58 「あ…ん…はあ…れりお、んれり…れら…れら…れら…」

れら…れら…れら…れら…れら…れら…」

(△手口キの音 じじめじ)

(△洗体の音 じじめじ)

〇59 「ああ…ん…はあ…」

〇〇〇 「彼女の耳に、同じルートを走った」

(少しうま)

(位置：次の台詞を聞しながら、③→⑤→⑦に移動)

〇〇一 「じゃあ、すね。」いかの方も…」

〇〇二 「え…わい。わい…はあ」

(△ヌルヌルの手口キの音 ループ)

(△ヌルヌルの身体を擦りつける洗体の音 ループ)

〇〇三 「れわお、れわお、れわお、れわお…
あ、」いつも感じ易いんだ」「

〇〇四 「れわお、れわお、れわお…
可愛こ姫、丑いよ」

〇〇五 「おのせたいな、おせせ、離こ姫…」

〇〇六 「んれわお、ひかや、れわお…むひと廳かせじよ…」

〇〇七 「私が知らない…れわお、れわお、
ヒツチな声…んれわお、れわお、れわお…」

〇〇八 「はあ…れわお、え…え…え…れわお、え…れわお、れ…れ…れ…」

〇〇九 「ふふ、耳…お…か…か…の…回…時…責…め…」

〇一〇 「頗…い…や…ん…区…ば…く…る…だ…」

…[可愛こ…わい]

〇一一 「わき…わき…、れ…れ…れ…れ…れ…」

〇一二 「…お…お…お…お…お…お…お…」

〇七八 「んれりお、れるれりお…れるう、ああ…良いよ」

〇七八 「射精…して。れるりお、れるりお…はあ、
れりおせ…ピュド…舐く少かんなかったから」

〇七八 「おちこさん、射精してる…とい、指に感じたから…。」

(△ヌルヌルの手口キの音 だんだん激しく ループ)

〇七八 「れりお、れるりう…れるれるう、はあ…」

〇七八 「手のひらヌルヌルだから…とい、
ヒッチな音…す」」ね

〇七八 「勃起したおちこさん、手口キしていくって感じ…」

「いや、意識しないやつ」

〇七八 「ああ…とい、れるりお、れるれるう、
れるりお…ぴかや、たのもう…ああ…」

〇七八 「おちこさん、辛いと感じる…」

「ヒドく良いくんだよ…れるりお、れるりお…」

〇七八 「先いせかく、びゅうう…れてるお、れるりう、
れるれるう、はあ…ん、ああ…」

〇七八 「精液…出るんだ。」

「ん、せあ…私の、手で…とい、ああ…」

〇七八 「んつん…はあ、ねえ…射精って、どんな感じなのかな」

〇七八 「精液が、ぬじい」「じゅるる」と通るのが…気持ち良いの~」

〇七八 「…とい、れるりお、れるれりお、れるりう…
ああ…く…す…す…す…す…す…」

○❸❻ 「……ん、ああ……やせたら、セックスも、したくなつちゃう……？」

○❸❼ 「……れろお、れるう、んれろお……れろ、
だつて……」の後、エッチ……したいから」

○❸❼ 「……私も、んう……はあ、気持ち良くなつて……そり」

○❸❽ 「……ねかくちんや、イキ……たし……ひ、
えり……れろお、とれぬ、れられるう……ああ……」

○❸❾ 「……大丈夫、なの？ ん……はあ、
じやあ……シャワー浴びたら、私の」とも、気持ち良くなしてね」

○❸❷ 「……んう、当たり前……じゃん」
今、すい！」ふ濡れてるから」

○❸❸ 「……んう、当たり前……じゃん」

○❸❹ 「乳首……擦れつけはなしだし……んう、あ……
身体も、『んな……くつ付けながり……』」

○❸❺ 「君の勃起おちんちん、弄りまくつてんだよ……？
そんなの、興奮……しおやうよ」

○❸❻ 「ん……はあ、あつああ……」うう。
おねんねん、射精しちゃう……」

○❸❼ 「はあ……んれろお、良じよ……出しだせ……
れろお、んれるう、れろれるう、れろお……」

○❸❼ 「ああ……イキそうな時、『んな顔するんだ……』」

○❸❼ 「んれろお、んちゅう、ちゅつちゅう……ひ、
れるう、れろれるう、れろれるう……ああ……」
「……」

○○○ 「我慢しちゃダメだからね。全部、握り出すか、さ…
んれひお、れのれひお、せひ、ハイハイ」

一〇〇 「うう」最近、甘えて…これまでお、れる…溜まつたでしょ。

一〇一 「匂じ切ってない精液、たくさん…う、
私の手口キで…れるれひお、それひ、れひれひ…」

一〇二 「えい、えいこい、ここう…ひ、
れるれろれるる、くみかくひ…う…う…」
「…」

(△ヌルヌルの手口キの音 一〇一(め)

(△ヌルヌルの身体を擦りつける洗体の音 一〇一(め)

(射精)

一〇三 「精液、びゅい、びゅい…う…」
「びゅーびゅー、びゅびゅーうう…」

一〇四 「ん…あああ…すいこ…」

一〇五 「射精する時つい、おちこち…」「こんながう」と、なるべだ!…」

一〇六 「…ん、はあ…」

「びゅーーい、手…放しそうになっちゃった…ん、はあ…」

一〇七 「…ん、ちゅい。れる…れる、れる…ぴちや、れる…はあ」

一〇八 「おちこちん、柔らかくなつちやつたけど…」

一〇九 「Hシチの時は、またガチガチにしていてね」

一一〇 「ん…ひゅい。ふ！」

(オノマイク、小瓶せり(め)

(■トラック5 両想い好き好きエッチ)

(s)

(【主人公】座っている)

(梨花)

(マイクとの位置関係：①と⑨の中間)

(体勢：座っている)

(◇シーツの擦れる音)

001 「あれ、コムヒー…もうないの？」

(少し間)

002 「そつか。じゃあ…付けなくとも、良いよ」

003 「今から服着て買いに行くのも…なんか違うと思つ」

004 「それより、早く…しよ？

今日…大丈夫な日だから」

005 「……もお。やつかかしないなら…」

(◇ベッドに押し倒す音)

(位置：①と⑨の中間→①と⑨の中間の少しづつ下に移動)

006 「勝手に入れちゃうね」

(◇愛液の音)

007 「ふう…はあ。さつきは君が頑張ってくれたから、
今度は私が上つて」「じど…んっ」

(◇愛液の音)

〇〇8 「あ…初めての時より、んう…入れ易いかも」

〇〇9 「ん…せ。君の形…憶えちゃったのかな…ん」

(△挿入音)

〇一〇 「んん…ああ…はあ、入った…ん、ああ…
…じゃあ、動くな」

(△抽送音 ループ)

(△ベッドの転む音 抽送の速度に合わせる感じで ループ)

〇一一 「ん…はあ、ん…ん…ああ…」

〇一二 「んん…ああ…ん…ああ…」

〇一三 「おかぐわさんの形…はいきり、分かれちゃう…んう、はあ…」

〇一四 「田い張いたと」も、ん…先っぽまで…全部…ん…ああ…」

〇一五 「」れが、生のセックス…ん…ああ…」

〇一六 「」んな、気持ち良いんだ…」

「んぐ、してないだけや…ん…はあ…」

〇一七 「ん…なの」、何だ…辛氣臭そうな顔、し…」

〇一八 「…なの」、何だ…辛氣臭そうな顔、し…」

〇一九 「んう、ああ…せ…」、生のおまこ」、気持ち良い癖に…」

〇二〇 「おのねがんかん、悦べじやつるよ…」

〇二一 「腰が引いたって…ん…あい、

「」や…奥でぐるぐる…おおおお…ん…」

O ۸۸ 「おかんちゃん…反応するよね。」

「う…せあ、 うん、 ああ…」

O ۸۹ 「ううな、 オナニーだけじゃ、 味わえない感じやない？」

O ۹۰ 「…ん、 はあ…私も、 すいしん…
ん、 感じたい…」

O ۹۱ 「セックストイ、 ストレス発散にもなり…
うあい、 ああ…ちよいせい感じのかも…」

O ۹۲ 「…ん、 はあ…ああ…」

今ほど、 ただの幼馴染だったけど…」

O ۹۳ 「…ん、 関係も、 んう、 良いと思わない?」

O ۹۴ 「…ん、 私が相手なら、 色々気遣う必要ない…
ん、 はあ…ん、 ああ…」

O ۹۵ 「そんなん」と、 なによ。

だつて… もう、 処女じや…ないんだよ。」

O ۹۶ 「生でも、 ん、 ハラチ…」

ああ、 いいかも氣持ち良くなれるなら、 別に…」

O ۹۷ 「ううん、 うあ、 ああ…
ん、 はあ、 ああ…」

O ۹۸ 「何が、 違うのさ。」

散々やった後で、 今更…じやん」

O ۹۹ 「おかんちゃん、 入れる前に…言ひてよ。」

「う、 はかあ…うん、 ああ…はあ…」

O ۱۰۰ 「身体…受け入れて、 ポムなしのセックスした後で…
」「…関係ダメいで…ん、 ああ…」

(位置：次の台詞を言しながら、①②③の中間の少しへて→③に移動)

○ 36 「せあ……じやあ、や……

じいじいの関係なら、ねじHシト…」

○ 36 「せいいわ、じいよ…

え……せあ……えい、ああ……あい……やね…」

○ 37 「せいいと、じいの運…

えい、せあ……えい……やくなの…」

(「」が「ホノマイク、小声で」)

○ 38 「私も…好き」…決まつてゐる」

○ 39 「えい、えい、ううああ、何…」」

○ 40 「えい、ふあいああ…せいいと、全然…違…」

○ 41 「んあい…ああ…んえい、

はあ…奥当たつたひ、あんい、やわやわ…」

○ 42 「…んあいあい、ああ…はあ…んあい、

ああ…ねえ、」」れい…」

○ 43 「もい、両想じいと」とだか…ん…」

○ 44 「私たち、恋人じいと」」とだか…ん…」

えい、はあ…ああ…やいのかあ…ふ…」

○ 45 「私、君の彼女になつたんだ…えい、はあ…

ずいと、幼馴染のままだつて、思つてたのに…」

○ 46 「えい…はあ、嬉しく…ちゅう、えれる、はあ…

えれる、れるれる、れるれる…」

〇47 「ああ…んれりお、れるれるう、ぴかやあ…はあ…んりつ、ああ…」

〇48 「ずうじ、待ってたんだよ。

今田！」やはつて思いながる、軒の「と、ふふ…かうどね…」

〇49 「れるう、んれり…れるう、れるれるう、

ああ…やいと、皿いたの」「…そ」

〇50 「はあ…足りない、よ…

一回だけじや、んう…ああ…」

〇51 「私も…好き…大好きい…

れるう、れるう、んれるう、れるれりお、れるちゅう…ひ、はあ…」「

〇52 「んつんう…ああ、んれるう、れろお…んう…わ！」ふ…はあ…

〇53 「」んな」…違つんだ…れるう、れろるう…

恋人同士の口うつ…ああ…」「

〇54 「氣持ち良すね……あつたかくじ……ふ、ちゅう」

〇55 「幸せ…だねえ…んう、んあ…ああ…

れるかゅう、んれりう、れるれるう、かきう…あきらめ…ひ」

〇56 「はあ…ああ…れるう、れるれるう、れるるう、ぴかやあ…
んれりお、れるれるう、んれりう…ひ、はあ…」

(位置：次の台詞を言いながら、③→⑦に移動)

〇57 「ああ…んつんう、ふあつあつあ…

」「かの耳」もお…べ、ちゅう…好き…大好きい」

〇58 「んれりう、れろれりお、れるう…んう…

ああ…れろお、れるるう…れりお…」「

〇五九 「ああ……んん、はあ……なんか、まだ……大きくなつてない?
れらね、れぐぐ「ああ…」

〇六〇 「や、絶対……ん、なつたるつてえ…
ん、はあ……れぬ、れるれろお……んう、はあ…」

〇六一 「れいれいよりも、中に、入つてゐる感じ、すのよ…」

〇六二 「んう……はあ、んうん、んあつああ…ん、ほらあ……んう」

〇六三 「お、大きいつてえ……ん、ああ…
れぬ、れるれる、んれろお、れぬ、はあ…」

〇六四 「それ」「ねう、そろそろ…イキそうなの?」
れろれるう、れるろお、んれるう、れるお…」

〇六五 「」ねう、はあ……良いよ、ん、

繋がつたまほ…奥に、精液ちようだい?」

〇六六 「んう、はあ……良いよ、ん、
んれらね、れるれろお、れぬ、んう」

(◇抽送音　だんだん激しく　ループ)

〇六七 「ああ…出してえ…んう、中に…濃じのひきつけ…
んうん、はあ…」

〇六八 「恋人なんだから、もう…我慢しなくて、良いんだよ」

〇六九 「んう…ああ…んれらね、れるれる、
れぐぐ、はあ…私もお…んう」

〇七〇 「イキヤ…だから…
れるう、れろれるう、熱いの…出つて…」

「ねえ、中六、直隸……んう、

大好きだから」と感じさせてね。」

〇七三「れるる、れるねる、んれる、ぴゅや...れるる、まあ...」

074 「好き…好きい…んんっ、あんっ、あつあつあ、
んん…っ、ふあつああ…」

075 「精液、中出し…してえ…んつんう、ああ…
私の、一番奥う…んんう、ちゅうう、ちゅ、

〇一六 「先づはに…子宮、れるうれろお、んう、
くづサナハダウム つづらう、ああ

077 「分かる……？」

〇七八 「先づせで…感じへるへ れるひ、れらお、ああ…！」

「そこお…糸浴で…人々…い…にして…」

ふあ…ああ…もうほんと【ひ…ん…お】
んつんつんう、ああ…いくう、いくつ、いい…つ

(△ベジの転む音 111ままで)

(射精)

(声を抑える感じで絶頂)

一〇八一「ススメテ、ススメテ、ススメテ、ススメテ、ススメテ」

二三二 あゝ、おおお

〇四三 「ああ……おぐその下、あつたかい……んう、はあ……」

084 「」れ・全部・君の・んう、はあ・」

〇四五 「好きい……い、ちゅい……
れぬい、れる……れぬ……ひやや、えい……れる、れるい……はあ」

〇〇〇「ああ……はあ……ふう」

087 「おちんちん、まだ硬い？」「えりうる？」

088 一 ん はあ ふ

FINAL

「いやあ、いのまほ……かね？」

(オンラインマイク、小声はここまで)

091 「え？ その体勢だと恋人ぽいっていうか……」

「え？ と…君が起き上がるは、良いの？」

(少
し
間)

(位置…次の台詞を言いながら、
⑦→①と⑨の間に移動)

「……ん。ちゃんと、支えてね。……」「ん？」

(◇シーツの擦れる音)

(位置：①と⑨の間→①に移動)

○⑨4 「……あ。なんか……思つてたより、顔…近いね」

○⑩5 「……」れ、対面座位で……黙つてだつた

○⑩6 「……そか、見つめ合ひながら…しちやうそだ」

○⑩7 「あ……ちやくと、できるかな」

○⑩8 「……や、だつて……照れくわいじつつか」

○⑩9 「幼馴染でじゆるの、長すぎたから。
付き合つてゐる実感とか、まだ…」

(△抽送音 ループ)

(△ベッドの軋む音 抽送の速度に合わせせる感じで ループ)

○⑩0 「ふふふ、あ…ちょいと、ふ…もお…」

○⑩1 「ふうふう、ふあひああ…」

○⑩2 「はあ…はい、ほんと…恥ずかしいト…ふふ」

○⑩3 「はい、やんな…ふう、ふあひ、あひひ、あひはあ…」

○⑩4 「ふう、その…嫌じや、なくして…ふう、
色んな気持が、ぐちやぐちやで…ふう、はあ…」

○⑩5 「あひああ……でも、慣れてかなくちや、いけないんだね…」

○⑩6 「ふう、ああ…はあ、ふうふ…
ああ…私…くひじや…ない…」

○⑩7 「ふうんあひ、ああ…

 やつ?.. 可愛いって…本氣で、聞ひてゐる?..」

○⑩8 「ふう、ふああ…嬉しく…ふあひ、あひああ…」

109 「ね、キス……」
んひ、はあ……」「んな、頗近いんだから…
「れひで……やつ、」「ふ、じゅ……」

(「か・ふ・オ・ン・マイ・ク、小声で)

110 「そむ……あひ……」

111 「ふはあ……
そつか……キス、初めて……んう、はあ……」

112 「なんか……逆に、なつちやつたね。

告白も、キスも……んう、はあ……ひゅう…」「

113 「ああ、けい、」「れからでも、良じよね」「お

114 「トーマー、手繋いで……んひ、
じゅぱい……恋人……」「と…」

115 「ん……ああ、恋人にしかできない」と、君と…」「

116 「んう……ちゅう、はあ……んあ、ああ…」

117 「キス、だくせ……ちゅう、ちゅうだい……」

118 「そむく、そちゅう、ちゅう、
んん……んむ、ちゅう、ちゅう……ああ」「あ

119 「柔らかい……ちゅう、ちゅうちゅう…
んむく、ふあつあむく……れむく…」「

120 「す、わいとお……れるれりお、あよだい……れる……く、あひ、
かわい……れるれり、れるれり……ひ、ふはあ…」

121 「ああ……んひ、はあ……あひあひ、ああ……こ、
ちゅう……れるれり、れるちゅう……」

(「」からキスしながら話すように)

1-222 「はあ…ひ、キスしながらの、セックストラ…
んふう、そわき、わきわき…」「

1-223 「…んなぶり」、なるんだ…

んかきい、わきわきするひ、れらお…んじんう…」「

1-224 「ああ…全部、溶け合ひるみたいで…」、「
ふあ「ああ…れるわよ…」

1-225 「身体、ふわって…んじふう、ああ…ちゅう、
わきわきするひ…れるれりお…はあ…」

1-226 「正直、カシフルとか、んう…じちゃついて、
ああ…むかつくって思つてたけど…」、「

1-227 「こわやこわやするセックストラ…」、「
氣持が良くな…ひ、頭…ばかになりそ…」

1-228 「んじああ…幸せえ…んちゅう、ちゅう…ああ…
そわき、わきわき…」

1-229 「ああ…ずいぶ、」、「うしてだいじ…んう、んじんう、
ああ…んれりお、れるれる…れぢゅう…」

(キスしながら話すのは「」ままで)

(オンライン)

1-230 「ふはあ…んう、ああ…
え、顔…」、「…なつて…」

1-231 「んう、はあ…むづ、じつでもいいや…」、「ああ…」

「彼氏」「だけ…だったらあ…んふう、ああ…」

「…」

133 「んひ、はあ…あひあひ、ああ…」

君も、いわや「アセックスし」、そり、顔…「やせんよ。」

134 「…ふふ、恥ずかしい声も…あんひ、

じつせん漏れで…んう、んあひあひああ…」

135 「あああ…！」の感じ…そり、はあ…
わひ、イキモ…んんひ、ひあひああ…」

136 「ふう…うんひ、イイ時は…一緒だよ…」

「人で、動きながらあ…んう、ああ…」

137 「んつんつんう、ああ…好き、大好き…んひ、はあ…」

138 「何回…ても、足りない…」

今あど、慣…れなかつた分、もひとお…」

(「」からキスしながら話すように)

(△抽送音　だんだん激しく　ループ)

139 「んむう…わゆう…好き…れるわゆう…好きい、好き好きい」

140 「大好きい…んわゆう、わゆぱり…わゆう…
れるれろお、んむう…い、ふあひああ…んむう」

141 「あああ…れぬう、れられらう、
キスも…わゆう、エッチもお…わゆう…」

142 「和じする」しんなう、そり、全部う…
わゆう、しゅき…わゆうわゆう…」

143 「あああ…わゆう、わゆるう…れるわゆう…んむう、
そむ…んうんう…あああんひ、イイ…」

144 「んっ、あっあっああ…深い」といぢえ、
んんう…繋がりながらあ…んちゅっ、ちゅう…」「

→45 「んんう、ふあああ…そんな、んちゅ…
ぎゅううう…されたいあ…んりんんううう」

卷之三

147 「んう、あゝああ…もう、もう…」

148 「んむ…ちゅうちゅう…んんう、ふありわゆり、わゆるり…んう、
んあい、好きい、好きい好きい…んうんうんう…」

(△ベジの転む音 11'まで)
(△連送音 11'まで)

(射精)

(キスしながら絶頂。キスしながら話すのはここまで)

卷之三

(△ゆつくりな抽送音 ループ)

一五一 「えう……あゅう、あゅう……あ……えい、れる、れる……
えああう……れあ、れあ……れあう……れあう……れ

(△やつぐりな贈送品 フードアウト)

「ああ……ああ……ああ……ああ……」

「…精液、また、びゅうって出てたね」「153

154 「……ふふ。ばれてないって、思つた?」

155 「それくらい、分かるよ。
……」 つい、なつてゐかる

156 「……ん、 ちゅう。
大好き……ふふ」

(オノマイク、小声は「」ままで)

(■トライック6 じかやつき添ご寝)

(セ)

(【主人公】寝てる)

(梨花)

(マイクとの位置関係：⑦)

(体勢：寝ている)

(◇シーツの擦れる音 右)

(「」がふホノマイク、小声で)

〇〇一 「……。まあ……ふふ」

〇〇二 「ねーん。いや…見てよ」

〇〇三 「ふうう…聞け。つまらへ、ふふ」

〇〇四 「今更…恥ずかしくないやつだった?
…れいわの！」

(少し間)

〇〇五 「ふふ。実は…私も」

〇〇六 「実感ないとか言ったのに、あんな求めちゃったし…」

〇〇七 「何回も、好き好きって…。

●●えなかつた分、なんか…溢れできちゃつて…」

〇〇八 「全然、止まんなく…。

●●思ひ返すと、やいぱ…恥ずかしいね」

〇〇九 「……でも、●●で良かつた」

O-1-0 「えいと……これからも、じつぱい恥ずかしご」と僵ひたり
しかやうだりするのかな。…君と」

(少し間)

O-1-2 「じゃあさ。恥ずかしご」とに、慣れておいた方が良いよね」

O-1-3 「……ん、ちゅう」

(◇シーツの擦れる音)

(位置：⑦→①に移動)

O-1-4 「……あ、やうと見ててくれた。ふふ」

O-1-5 「ほいぺよっ……脣の方が、良い?
……なり」

O-1-6 「ん……ちゅう。ん……ちゅう……ちゅう……はあ」

O-1-7 「ああ……ちゅう。顔、あいつ……
ふう、ちゅう、ちゅう……ちゅう……ふふ」

O-1-8 「やいぱせ……慣れる気、しないなあ」

O-1-9 「やいぱせ……慣れる気、しないなあ」

O-1-10 「……だつて……ちゅう」

O-1-11 「キスの時は、ドキドキしてた方が、良いかなって……
ん、ちゅう……ちゅう……はあ」

O-1-12 「……大好き」

O24 「……」れからむ、ずっと側にいてね
「

O26 「……ちゅう」

O27 「……幼馴染よりも、近いといひに……ね。ふふ」

(オンマイク、小声は「ままで」)

(END)

(計 約17330文字)